

“集落営農に弾み！！”

JAそうま小高総合支店
次長兼営農経済課長
門馬 正典



小高区集落営農組織連絡協議会設立

10月25日にJAそうま小高総合支店において、小高区集落営農組織連絡協議会の設立総会が開催されました。これから向かえる法人化のための組織間の情報交換や相互支援等を目的とするもので、7集落から営農改善組合と生産組合の代表者26名が出席しました。

協議会の会長には上蛭沢営農改善組合の佐藤良一氏が選任されました。

議題として協議会規約、活動計画及び予算(案)が原案どおり承認されました。小高区では、平成6年から小高区南部地区を始めとして、大区画圃場整備が施工され、7集落で区全体の約20%に当たる350haが経営基盤となります。各集落では、圃場整備の完了後に任意組合を組織化しソバと大豆に取り組んできました。

現在、7集落では生産組合が担い手となり、品目横断的経営安定対策に加入し、水稲と大豆によるブロックローテーションが行われ、経営の主軸になっています。いずれの地区も低地という不利な条件下にありますが、今年は7集落合わせて96haの大豆栽培に取り組み、11月末に収穫作業が終わりました。今後は施設園芸の導入や直売所開設等も視野に入れ、積極的に経営改善を進める予定です。これら活動の成果が他地区にも波及することが期待されています。



JAグループ福島県営農センター・福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

(福島市飯坂町平野字三枚長1-1 TEL 024-554-3072 FAX 024-554-6022)

http://www.fs-suishin.jp/04_doc/04_vision.html

平成19年度集落営農塾が 開講！（JAいわき市）



JAいわき市では昨年に引き続き集落営農塾を開催しました

日時 平成19年11月20日（火）

場所 JAいわき市本店2階大会議室

参加者は集落営農リーダー50名

最初に「いわき市地域担い手育成総合支援協議会会長」（いわき市農業協同組合経営管理委員会会長 高木正吉氏）によりあいさつされました。

趣旨：いわきには現在永井地域を初めとした重点集落で集落営農の成果があがっている。今後、集落の運営を含め地域の活性化を活用願う。今回は、楠本氏を講師に招き、下記の内容で講演を願った。地域の多様な条件を生かす集落営農は、いわき市の様な多様性に富む地域にとっては、大変タイムリーな内容で今後の集落営農発展の参考になるものである。

（1）講演『地域の多様な条件を生かす集落営農 ①』

「集落営農に魂を」と題して、講師農山村地域経済研究所長：楠本雅弘 氏

講演内容：全国の優良事例の紹介を含めて、これかからのいわきにおける集落営農の参考になる点についての説明があった。集落営農とは地域の労働力、農地等の地域資源、機械や設備、資金を活用しより多くの所得の得られる営農家形態をつくり「元気な農業」と「活力ある地

域社会」を両立させる農業システムである。中山間地域ほど多くの課題（経営規模・リーダー不足・稲作偏重・高齢化等）を踏まえており、実態に合わせた、体制の整備が必要である。集落営農には多くの種類があり、地域にはその地域にあった集落営農があること等多くの示唆をされました。

（2）楠本先生を囲む意見交換

これら課題を受け手、地域の意見交換がおこなわれました。

おもな意見としては、Q：集落営農に希望が持てないがどうしたら良いか？A：米麦大豆だけの集落営農では厳しい場合があるが、地域全体で参加して地域資源を活用した仕組みづくりと新たな仕事を作ることにある。間に合わせ的な集落営農ではだめである。Q：米価下落に対する期待感では。A：地産地消直売で一俵2～3万円で販売したケースや、集落営農しかできないものもあるはず。（産地づくり）Q：中山間地でもはや限界集落になりつつある実態に対して。A：平場と異なり中山間地ほど工夫が必要と、高山の事例（経費をかせずに高く売る工夫等）を紹介しながら再生産できるシステムの構築など、多くの事例を提示しながら、活発な意見交換がされた。

今後の研修内容：次回は12月11日に、「地域の多様な条件を生かす集落営農②」では「集落営農から法人へ」の内容で開催する予定で、今後2月までに講演会等の内容で4回を実施する予定である。

